

大学生と創る若者に子宮頸がん検診を受けてもらうための効果的な方策についての研究

聖隷クリストファー大学 看護学部 がん看護ゼミ（大石研究室）

指導教員：教授 大石ふみ子

参加学生：鈴木花、林優香、白井美妃、仲若真理、山口紗愛実

1. 要約

子宮頸がんはヒトパピローマウイルス（HPV）感染が原因で発症することが明らかになっており、20～30代の患者が多い(飯原, 2007)。子宮頸がんは、がんになる前に検査（細胞診）で異常を見つけることができるため、細胞診を受けることにより死亡率が減少する。最近では性交渉開始年齢が低くなっているため、若年層への検診を促し、早期発見・早期受診を促していく必要がある(助川明子ら, 2016)と言われている。しかし、子宮がん検診は、膣内の組織を採取する手続きにおいて羞恥心を伴う検査であり、検診による発見が重要となる若年層における受診率は高くない。この点について、沼津市健康づくり課から『若者に子宮頸がん検診を受けてもらうための効果的な方策』という課題が提示され、共同で取り組むこととなった。

文献やグループディスカッションで若年女性が検診を受診しない理由を検討し、その一方で現在の静岡県の各市町の検診受診促進への取り組み内容を調査した。そして、若年女性の思いと現在提供されている情報の間のずれを明らかにし、新たな広報の方策を検討し、若者に働きかける媒体となるパンフレットを作製した。

2. 研究目的

若年層の子宮がん検診受診率の低さをもたらしている要因と、受診行動を促す要因を検討し、沼津市の特性を踏まえた効果的な検診促進の方策を明らかにする。

3. 研究の内容

本研究は、以下の内容で実施した。

- ① 文献検討により、子宮がん検診についての日本の若年女性の意識を明らかにする。
- ② 20代女性であるゼミ生のグループディスカッションにより、子宮がん検診への受診行動促進方法を検討する。
- ③ 静岡県内の市町村の子宮頸がん検診に対する取り組み内容と受診率を、インターネットで見られるweb情報、各自治体発行物より明らかにする。
- ④ 沼津市の検診状況の視察（沼津市・健康づくり課・検診予防係との調整により）
- ⑤ 上記①、②、③、④に基づく、沼津市の若年女性の子宮頸がん検診促進のための方策（知識提供のための媒体や、受診を呼びかける媒体を含む）を検討し、資料を作成する。

4. 研究の成果

(1)当初の計画

当初は、前項の研究の内容における①、②、④、⑤で、検診を受ける立場の若年女性の思いや考えの調査に基づいた資料作成を予定していた。

(2)実際の内容（B：一部修正）

研究を開始し、文献検討と若年女性のグループディスカッションに基づいて資料を作成しようとしたところ、方向性が定まらず、散漫な内容となってしまったため、当初予定されていなかった前項③、沼津市をはじめとした静岡県全市町の現行の子宮頸がん検診促進の方策の調査を行い、不足内容や、追加に意義がある内容を見出すプロセスを加えた。

(3)実績・成果と課題

<受診者側と検診実施者側、双方を調査してずれを見出す>

① 若年女性が子宮頸がん検診を受診しない理由と有効な働きかけの検討

文献検討から、若年女性は子宮頸がんについての知識がないことと、自分は若く健康であるという認識から子宮頸がんが自分とは関係ないと感じていること、そして**検診を恥ずかしい、怖い、面倒である、負担である**と感じ、受診行動から遠ざかっていることが示された。

文献検討をふまえた、20代女性看護学生のグループディスカッションでは、このような若年女性に対して受診行動を促進するためには、検診場所や時間、費用などのほかに、**子宮頸がん**と**子宮頸がん検診**に関する情報、できるだけ具体的にイメージするための体験談や**医療者の声**が有効ではないかということが提示された。

② 静岡県の各市町における、子宮頸がん検診促進の取り組みの現況調査

静岡県全市町のホームページと、市町で実際に用いている紙媒体資料を収集し、子宮頸がん検診について現状ではどのような情報提供がなされているか調査したところ、検診の時期、場所、受診手続きや無料クーポン等、実際に検診を受ける方法については丁寧な情報提供がなされていた。しかしその一方で、**子宮頸がんとは何か、検診にはどのような意義があるのか、実際に検診はどのように行われるのか、**という内容についての情報提供は全く行われていない自治体も多く、行われていてもその提供のあり方にはばらつきが多かった。つまり、実際に検診会場に行くことができるための情報は提供されているが、**検診に関する不安を解消し、検診を受けたい、受けるべきだ、と感じるための情報は不足している、**ということである。これにより、静岡県内で使用されている**既存の資料**には、我々が文献検討やグループディスカッションで**有効と考えた情報が不足している**可能性が示唆された。

③ 子宮頸がん検診の見学

沼津市で実際に行われている子宮頸がん検診の見学を実施した。そこで改めて気づいた検診の手順、検診会場の様子や配慮について具体的に伝えることが、検診への抵抗感を軽減する役に立つのではないかと考えた。

以上の①②③を踏まえて若年女性に子宮頸がん検診の意義を伝え、検診受診行動を促進するための資料作成を行った。

＜検診の受け手と実施者のあいだの、ズレを埋める資料の作成＞

① 作成する資料の項目は以下のとおりとなった。

- ・子宮頸がんについての基本的情報（若年女性の罹患率が上昇、検診の意義（早期発見で妊娠・出産可能）、原因はウイルスで、性交渉で誰もが感染するリスクがある、症状がない、ワクチンを接種するだけでは不十分、など）
- ・検診の実際（使う器具、時間、実際に行われること、方法等）
- ・体験談（検診のきっかけ、実際にどうだった？イメージとの違い、検診後の変化、メッセージ）
- ・受診方法：料金・クーポン・場所、方法などは既存の資料があるため最小限にする。

② 資料作成における工夫と課題

できるだけ正確で充実した内容を伝える目的で作成した第一案は、ほとんどが文章で構成されることになった。これについて、がん患者会やがん教育に携わる専門家に囚ったところ、「読んでもらえるためには文字数を減らし、中身を読まなくてもメッセージが伝わる工夫が必要である」と、工夫と改善を勧められた。

これをふまえ、対話の形で情報、内容が含まれるようなアレンジ、漫画形式の取入れなどを試行錯誤し、さらにイラストレーターに依頼して魅力的な媒体作成を行った。制作物については、内容について沼津市の保健師と検討を重ねた。医療者の望む正確さと、丁寧な説明内容のすべてを掲載することは難しく、今後の課題である。作成した資料は最終項に示す。

(4)今後の改善点や対策

今回作成した資料は、来年度の沼津市の検診事業で活用していただく可能性があるとのことであったが、一年間の事業であるとその後の評価や資料の精練が行えない。本学のゼミナールは、最終学年の1年ではほぼ実施されるため、学年を超えた継続が難しい。今後は成果を積み上げられるよう、学年を超えた学生間の交流、取り組みを行えればと考える。

5. 地域への提言

私たちは、沼津市との協働によりこのような課題に取り組むことができ、生きた学習をさせていただいた。子宮頸がん検診への受診促進に関する今回の一連の調査・検討を通し、人々に働きかけることの難しさ、働きかけるポイントを探ることの大切さを学ぶことができた。このような学習成果を、次の学年の学生が活かして次の事業に取り組むようなシステムができ、静岡県のがん検診が看護学生の学びのフィールドになれば、と希望する。

6. 地域からの評価

沼津市の若い女性の子宮頸がん予防に力を入れたく、大学コンソーシアムを介し聖隷クリストファー大学の学生さんに協力を依頼しました。若い人の目線で子宮頸がん検診の啓発をすることは、受診する立場に立って作成された内容であるため受手の心に届くのではないかと考えました。静岡県各市町村の検診の状況や周知状況などを把握しただけでなく、

実際に沼津市婦人科検診車の見学にも来て学んだことを形に落としていただきました。素敵なものに仕上がっており、このリーフレットを沼津市だけで活用するのではなく、幅広く若い女性のために活用できることを願っています。

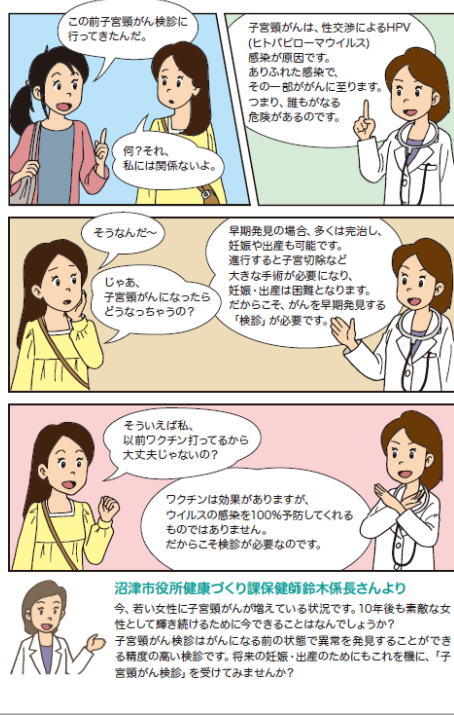
沼津市健康づくり課 検診・予防係 主任保健師 土屋沙織

作成資料 (イラスト協力: Form Followed Function F3 デザイン 山本 秀行)

子宮頸がん検診で あなたの未来 守りたい



まだ20代だから…まだ若いから…
と思っているそのあなた!
今20代で子宮頸がんを発症している人が増えています
他人事だと思わないでください



この子宮頸がん検診に行ってきたんだ。

子宮頸がんは、性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染が原因です。ありふれた感染で、その一部ががんに至ります。つまり、誰もがなる危険があるのです。

何?それ、私には関係ないよ。

そうなんだ~

じゃあ、子宮頸がんになったらどうなっちゃうの?

早期発見の場合、多くは完治し、妊娠や出産も可能です。進行すると子宮切除など大きな手術が必要になり、妊娠・出産は困難となります。だからこそ、がんを早期発見する「検診」が必要です。

そういえば私、以前ワクチン打ってるから大丈夫じゃない?

ワクチンは効果がありますが、ウイルスの感染を100%予防してくれるものではありません。だからこそ検診が必要なのです。

沼津市役所健康づくり課保健師鈴木係長さんより

今、若い女性に子宮頸がんが増えている状況です。10年後も素敵な女性として輝き続けるために今できることはなんですか? 子宮頸がん検診はがんになる前の状態で異常を発見することができる精度の高い検診です。将来の妊娠・出産のためにこれを機に、「子宮頸がん検診」を受けてみませんか?

検診って具体的に何をやるの?

子宮頸がん検診では主に内診、細胞診という方法で検査が行われます。

内診

- 1 異常がないか、目で見て確認します。
- 2 陰道という金属の管をいれて、膣の内部や子宮の入り口に異常がないか観察します。
- 3 膣の内部で赤癢の上から両方の手で挟むようにして、子宮の大きさを触り、腫れがないか確認します。

細胞診

- 1 膣から専用の器具を挿入します。
- 2 子宮の入り口を細棒のような器具で優しくこすり細胞を採取します。

検診って時間がかかるの?

ほぼ痛みもなく、約3分で終わる簡単な検査です。

検診って恥ずかしくないの?

男性の医師によって行われることもありますが、検診者と医師の間はカーテンで仕切られていて、恥ずかしさは少なくありません。

検診車は、入り口には厚いカーテンがあり、外から中は見えないうつです。中はカーテンで仕切られており、検診を待つ人と、受けている人が顔を合わせることのないようなシステムでプライバシーが守られています。

検診はどこで受けられるの?

検診は様々な病院で行われる産科検診と、保健センターで行われる集団検診に行かれます。集団検診では検診車の中で実施されています。

市民福祉健康づくり課 / 沼津市
市民福祉健康づくり課(保健センター)

〒410-0881 静岡県沼津市八幡町97
電話: 055-951-0380
ファクス: 055-961-5444
メールアドレス: kenkou@city.numazu.lg.jp

子宮頸がん検診を受けた人に聞いてみました

Q1 検診のきっかけは何ですか?

無料クーポンが送られてきて、無料なら行こうかなと思いました。学校の先生からも行かなくてはいけないという思いもあって、方が一病気を患っていたら怖いという思いもあったので行くことにしました。

Aさん

無料だから行ってきなさいと医療従事者である親に勧められたことがきっかけです。1人で行くのは怖かったため親に付き添ってもらいました。

Bさん

Q2 実際に受けた感想をきかせてください。

一瞬で終わったのでびっくりしました。一瞬すぎてほとんど覚えていないくらいに。

痛いのかなと不安な気持ちもありましたが実際そのようなことはなく、不安が顔に出ていたせいかな丁寧に説明をした上で検診を行っていただきました。

Q3 検診後の変化はありますか?

異常じゃないと分かって安心した気持ちで過ごしています。

検診を受けることに対しての不安は軽減しました。また、続けて検診を受けようという気持ちになりました。

Q4 受けていない方々へメッセージをお願いします。

せっかく無料で行けるのだから行っておくべきだと思います。日本の学校は性教育をしっかり行っていないところも多いので自分で自分の身体に興味を持って知ることが大切だと思います。

検診に行くことを周囲に感じてしまうかもしれませんが、無料のクーポンもありますし、検診も短時間で終わるので、自分の身体のためにも一度検診に行かれてみてはどうでしょうか。

制作: 聖隷クリストファー大学看護学部 2018がん看護セミナー、沼津市役所健康福祉課 イラスト・デザイン: F3 (エフスリー) デザイン

※本資料作成においては、ふじのくに地域・大学コンソーシアムの助成を受けています。